

常任委員会行政調査報告



「たらふく館」

を生み、有明海に広大な干潟を生み出しており、「月の引力が見えるまち」と標榜している。

③特産品販売施設「たらふく館」は町が建設し、NPO法人が運営しており生産者会員数二百人で、道の駅として観光案内、地域情報の提供を行っている。行政は運営には口出しせず、NPO法人の自主性にまかしている。十八年度の販売実績は一億七千万円、来客数十四万人で約八割は地元生産

者会員の産品である。インターネットを利用して町内産のみかん、のり、牡蠣などの地方発送も積極的に行っている。

④本町にも大山ガーデンプレイス、大山望などの地域産品の販売施設があり、独立採算での運営が難しい状況であり、生産者会員の拡大と、地域特産品、加工品などの開発を行わなければならない町の財政負担が増加する一方である。

⑤町単独でリサイクルプラザ（中間処理施設）を有し、指定管理により運営している。特にてんぷら油の廃油を収集し固形石鹸に再生し、廃油持ち込み者に無料で配布している。又、ガラス類、不燃物は破砕分別を行い、広域の最終処分場で処理している。



高野町での懇談

調査地 和歌山県高野町ほか
調査項目 自立のまちづくりについて
調査地の概要 高野町は和歌山県北部にある、弘法大師が山岳密教として開いた地であり、百年前までは女人禁制の宗教のまちであった。まちは、高野山山頂の平坦地に作られており、宗教と観光文化都市として多くの観光客が訪れる。

【総務常任委員会】

〈財政再建をめざして〉

町の狭い土地も金剛峰寺（こんごうぶじ）の領地となっており、役場も寺からの借地であった。平成の合併は住民投票の結果、合併しなかった。

調査のまとめ

①まちには観光客も多く活気があるようだが、人口の減少に歯止めがかからず、町単独で消防署、病院を運営しており財政状況が相当悪い。

②平成二十年度には、基金残高がゼロとなり、赤字額は二十一年度三億一千万円、二十二年

度二億九千万円と推計され、財政再建団体に転落すると予測されていた。

③平成二十二年度までに見込まれる約六億円の財源不足を解消するため、緊急対策と中期的対策を各年度の目標額を定めて取組まれてい

た。

④携帯電話のiモードを利用して、町の情報が低コストで何時でも、何処でも、誰でも簡単に知ることができるようになった。

⑤しかし、加入者が人口四千五百人のうち四百五十人と少なかったが、十万円ほどの経費で実施できるなら学校・保育所から保護者への連

絡など使い方によっては、有効な手段と考えられる。

⑤疲弊した地方の小規模自治体は全国至るところに存在しており、国の政策の転換が必要であるが、責任を転嫁すべきでは無い。本町も一層の行財政改革を断行し、借金体質から脱却しなければなら

【産業建設常任委員会】

〈活気あるふるさと特産品販売〉

調査地 佐賀県太良町

調査項目 特産品の開発、販売及びリサイクルプラザについて

調査地の概要 佐賀県の西南端に位置し、標高千メートルの多良岳を頂点として有明海に扇状に広がっている。人口一万七百人、面積七十四平方キロメートルで、

平成の合併はしなかった。

調査のまとめ

①気候が温暖でみかん、畜産、野菜、花卉栽培が盛んである。又、有明海のおさり、カニ、海藻、豊富な魚種など自然の恵みを受けて第一次産業従事者が二千三百五十五パーセントと多い。

②潮の満ち引きにより六メートルもの干満の差

地方分権改革推進特別委員会報告

就任いたしました



西郷一義議長

中国地区町村議会議長会長
鳥取県町村議会議長会長

○農業問題について

都市と農村との格差が拡大しつつあり農業問題について取組み振興策を考える事は重要である。関係課から計画を聞き、分科会に委託しその後全体で検討する。

○常任委員会の調査活動について

財政的な面や、より成果がある調査活動について検討する。

○議員定数について

財政状況が厳しい中、定数見直しについて全体で討論して行く。